

—古平・余市・仁木、
赤井川・小樽は、運命共同体—

風の 祈り

—第十八章



まほろば主人
宮下周平

余市港、シリバ岬直下にある海上自衛隊「余市防備隊」(筆者撮影)



一、「風力発電建設規
制、政府が新法案」何
故、今？

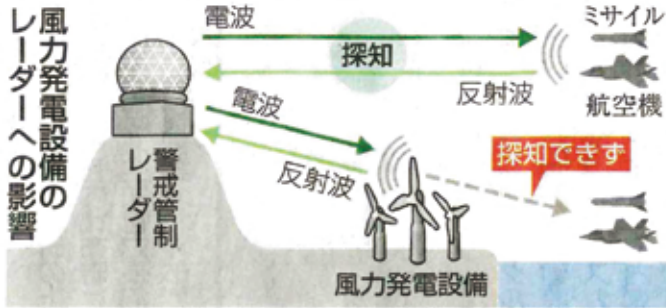
政府が、防衛省の要請を受け、「陸上風力の建設制限の新法案」を1月26日から始まる通常国会に提出することになった。(『風の祈り』第9章・参照)

自衛隊基地レーダーの受発信や気象レーダー、また基地間の無線通信を、風車が狂わせる懸念があるとする主張を受け入れた形となる。これは、在日米軍のレーダー

陸上風力建設制限も

政府が新法案 自衛隊レーダー影響

政府は、ミサイルや航空機を探知する自衛隊のレーダーに影響が出るとして、陸上での風力発電設備の建設を規制する新たな法案を来年の通常国会に提出する



方針を固めた。防衛相が指定する区域では届け出を義務付け、著しい支障があると判断すれば2年間建設を制限するのが柱。北朝鮮の弾道ミサイル発射や中国軍機の飛行が活発化する中、対処力を高めるためには法規制が不可欠と判断した。複数の関係者が29日、明らかにした。

政府は現在、事業者が風力発電用の大型風車の建設や建て替えに関する事業計画を定める際、事前に相談するよう呼びかけているが、法的な根拠はない。一方、再生可能エネルギーを推進する観点から風力発電の導入拡大を目指しており、事業者側から規制に理解を得られるかが課題となる。

自衛隊のレーダーは目標に電波を送り、反射波を受信して位置を特定する。防衛省は風車が電波を反射し、目標の正確な探知が困難になると主張。レーダーの標高や風車の高さによっては、双方が100m以上離れていても影響が生じる可能性があるとしている。関係者によると、対象は

全国28カ所の警戒管制レーダーや、航空機の基地にある気象レーダーの周辺に加え、基地同士の無線通信を遮る可能性がある地域とする方向だ。在日米軍のレーダーを含めることも検討している。



画像出典：海上自衛隊余市防備隊 HP より <https://www.mod.go.jp/>



画像出典：<https://www.yomiuri.co.jp/>

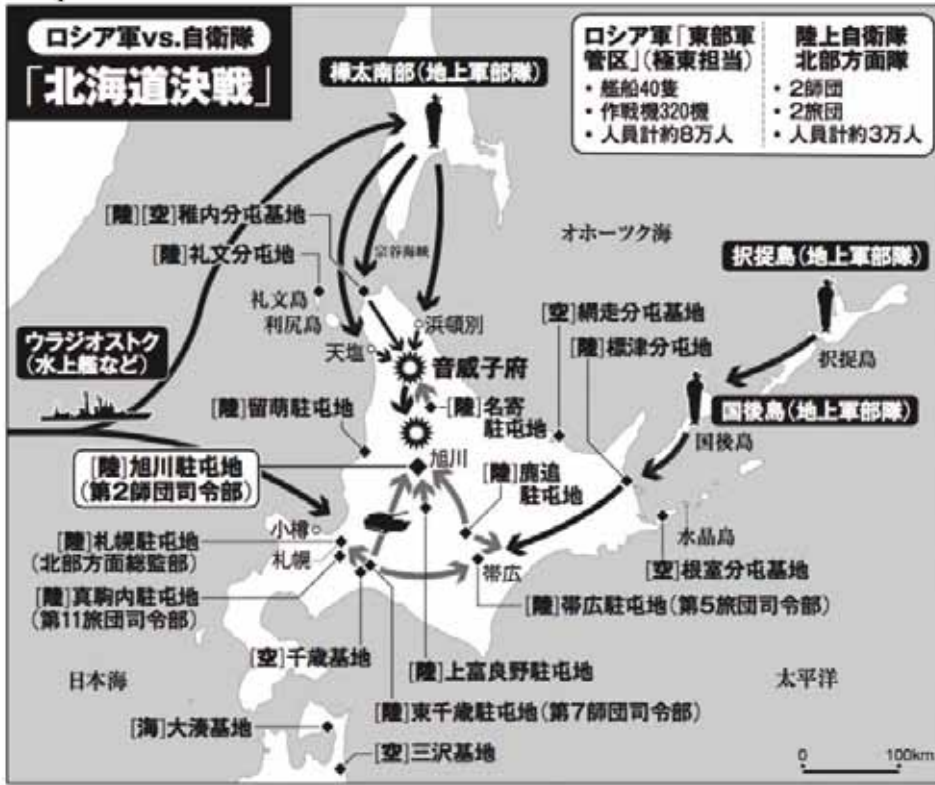
も含む。実際、双方100km以上離れても影響があることを認めた。

北後志のみならず、余市港が軍港でもあることを知っておられましたが。

台湾・尖閣有事が叫ばれる今、漸く政府も重い腰を上げ、基地レーダーを阻害する風車に、待ったをかけた!!

それは、もし風車建設が実現すれば、防衛上の標的、町自体も攻撃対象になる危険性も浮上して来たのだ。こちらがミサイル艦を擁する軍港である以上、ミサイルが

風の 新の リ



画像出典『現代ビジネス』より <https://gendai.media/>

飛来してくることは当然のことなのだ。小樽・札幌・千歳より先に、余市港が爆撃される恐れは大なのだ。正に、三町風車基地が、即敵陣の誘導塔となり、標的ともなり得る。自然破壊の脅威と共に、国

防上の危険性が、ここ一帯に忍び寄っていることを知らなければならぬ。それでも、風車を誘致するといふのだろうか。古平・余市の首

余市港の海自ミサイル艦施設「余市防備隊」

◎冷戦が進み、対ソ連政策として北海道日本海沿岸に魚雷艇基地を建設するという構想が出てきた。余市町では、基地誘致を目指し、1962年（昭和37年）に町議会において基地誘致議決がなされ、1970年（昭和45年）に基地の建設が決定した。同年10月には、基地設置に反対する漁民らが違憲であり公益性が無いとして、漁業権変更免許の取り消し処分を農林大臣に求める請求を起こしたが却下された。請求と並行して工事が開始され、1971年（昭和46年）に余市漁港の最北端に魚雷艇基地が設置された。寿都町も候補地であったが、背後に高い山があるという条件で余市が選定された。（『ウィキペディア（Wikipedia）』より）



写真：配備された最新鋭魚雷艇（昭和46年6月19日の新聞より）余市町HPから転載

長は、町民の安全を脅かす風車誘致を、保安林解除を率先して宣言するといふのだろうか。
町民の皆さんは、家族を守るためにも、是が非でも、風車反対の声を上げて下さい。

2018年2月。米国の生物学者ウイン・グラント博士が冬眠中のクマにGPSを付けて生態観察を行った。その結果、クマが冬になっても冬眠せずに起きていることを知らしめた。ネバダ州パインナット山脈の2月の気温は平均より4・7度、1月は5・4度高かった。冬に最低気温が1℃上昇するごとに、クマの冬眠日数は6日減り、今世紀半ばまでに年間15



<https://ecotopia.earth/>

二、クマった問題「冬眠しない熊」



冬の山中を踏査するウィン・グランド博士 <https://www.adn.com/>

日から**39日**増える**可能性**があると
研究報告は述べている。

何故冬眠しないかは、「温暖化による暖冬」、「雪不足による野生種の実の確保」を原因としたが、さらに「GPSの発する**電磁波**による**不眠症**障害である」ことを突き止めた。**電磁波**被害による**クマの冬眠（安眠）妨害**と、結果として不眠症のクマが都市部に出没する。5Gなどの鉄塔や高圧電線やメガソーラーなどの電磁波障害、風車の発する超低周波音による問題、

クマの脳波を攪乱し、居場所剥奪などを考慮せねばならない重要案件であった。

環境庁は、環境アセスに「風車病」に係る事項は、一切盛り込まない認めない方針で来ている。だが、実際、眩暈や偏頭痛、不眠等の人間の感覚器の反応以上に鋭敏で繊細なる野生動物が、電磁波や低周波等に影響されない訳はないのだ。ましてや禽獣や昆虫、微生物など、ミクロになるほど著しい影響下に晒されることになる。

ことに昨年より、クマの冬眠時期が短くなって町に出没徘徊し、



人を襲う事件が連日のように報道されている。地球温暖化もさることながら、**目に見えない電磁波障害が、人間生活のリズムを狂わせ、クマの生態系までも狂わせている。その原因が、人間側にあることを反省しなければならぬ。**風車を増設することは、獣道を崩壊させるのみならず、クマまでを誘き寄せることになるのだ。

三、昆虫ストライクが、農家にダメージを与える

ベルリンセミナーの報告より

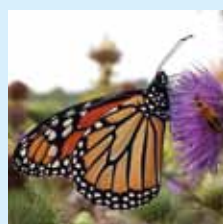
—ベニー・パイザー博士編—

「……風力タービンに絡む前代未聞の事態を指摘したい。



Dr.Benny Peiser
画像出典：<https://ieei.or.jp/>

飛翔する移動性の昆虫は、60メートル以上の高さまで上昇し、より遠隔地まで移動してから産卵することができる。



画像出典：Wikimedia Commons

この方法は、これらの昆虫が食物競争なしに新しい環境を見つけることができるように進化したもので、**何百キロも遠くまで移動することも可能である。**

何百万年もそのようにしてきたのだ。

しかし、現在では、**高度100mの風車にこのような昆虫たちがぶつかり、その死骸が時期によってはタービンのブレードに附着し、エネルギー収量を大きく低下させる原因となっているのだ。**

私が、ドイツ第2位の風力発電メーカーである**REPower社**の**CEO**だった頃、少なくとも年に1回、時には年に2回、ブレー

風の祈り

The German Wildlife Foundation
は、風力タービンの急速な拡大と、過去20年間で

これは重要な事実であり、きちんと調査する必要がある。

この殺処分率の大きさを知ってもらうために補足すると、それはおよそ**5%**だ。
はつきり言おう。**移動性昆虫の5%がこの方法で殺されているのだ。**

ドをきれいに洗浄するための新しい技術を開発しなければならなかった。
これまでの研究では、**約1,200億匹(約3600トン)の移動性昆虫が殺されていると推定**されている。



『風力発電が野生動物と自然に与える悪影響 ベルリンセミナーの報告より』ベニー・バイザー博士編監訳 杉山大志 訳 木村史子より

飛翔性の昆虫が75%減少したと推定されることとの間に
相関関係があるかどうかを調査する予定である。……」

更に、**ピーター・ヘンダーソン** オックスフォード大学教授の報告によると、風力タービンが大量の昆虫を殺す可能性が高いことは、ブレードの翼の先端に付着した虫の死体が強風時のタービン出力を半減させる要因であるという驚くべき事実によって裏付けられている。風力タービンに昆虫が集まることはよく知られており、使用する塗料の色によって誘引の度合いを変えることはできない。一般的なタービン



画像出典: www.researchgate.net/

の色である純白とライトグレーは、紫外線を反射する塗料と同様、昆虫を引きつけることで知られている。風力タービンは飛翔昆虫の移動を妨害するのに十分な大きさであり、例えば、北米の蝶、オオカバマダラは、風力タービンの犠牲になっていると報告されている。

この報告は、衝撃であり、見逃せない事実だ。それは、北後志一帯は、農業地帯であり、益虫による裨益は、計り知れないものがあるからだ。無数の昆虫の死は、誰もが気付かなかつた。だが、その報復は人間生活を脅かすものだった。目に見えない世界で、生態系が徐々に狂って行っているのだ。「沈黙の春」。ある年を境に、突然作物が穫れなくなる。そんな悪夢は、他人事ではないのだ。
その最たるものが次のミツバチであろう。風車によるミツバチ激減の実例の、しかも国内の報告に目が離せない。仁木・余市の果物主産地にとっては、これは死活問題なのだ。

果樹農家も、トマト農園も、ワインリーのオーナーも、聞き捨てならない現実には、耳を欲てたい。

四、ミツバチの滅亡は人類の滅亡

かつてノーベル賞物理学者A・アインシュタインは「もしこの地球上からミツバチが消えたら、人類は4年しか生きられない」と警告された。

「風の祈り」第16章にて、「東伊豆」の視察報告があり、覚張敏子さんのメッセージを掲載。そのご主人進氏が2013年1月16日付けで、このミツバチの衝撃的な報告をされたが、それはアインシュタイン博士の予言を想起させるものだ。



画像出典: https://news.tv-asahi.co.jp/

風車稼働でミツバチが 消え、奇形が発生

風車の影響による大気の異変からか、日本ミツバチが逃げ出すことについては、既にお知らせしてあります。

野中さん宅では**10箱あったミツバチのすべてが空っぽ**になってしまったとのこと。昨春までは2箱だけ営巣していましたが、それも逃げ出したようです。

ミツバチを飼っていた周辺の住宅でもすべて同じことが起きていたとのこと。一帯から日本ミツバチは全くなくなってしまっているようです。

当初は分蜂時に大軍団(5000匹ほど)で逃げ出し、熱川のバナナ・ワニ農園あたりで営農していたようですが、最近ではバナナ・ワニ農園からも逃散、今では野中さん同様、**一匹もいなくな**ってしまっているという事です。バナナ・ワニ農園は2・5kmほどの距離があります。



<https://www.chunichi.co.jp/>

南伊豆でも風車に近い(500〜600m)仲木地区でも同じようなことが起こっているということです。南伊豆では、風車から5km程度離れた下賀茂地区にミツバチが集まっているとのこと。以上のことの他に、野中さん宅では残っていた2箱(家の裏手と小林さん宅に降りる林の中)のミツバチに異常が発生。女王が産んだ卵が幼虫からサナギとなって羽化すると**多くが奇形で飛べない状態**だったとの事です。サナギから孵ったミツバチの羽根は振じれた状態で開くことが出来ず、飛べないので、巣箱から這い出て来ても飛べないため地上に落下、そのまま**大量に死んで**いたとのこと。以上が野中さんのご主人からお聞きしたことです。

野中さんには、南伊豆など風車の



南伊豆の風車群

ある他地域でも同じことが起きているのか、機会があったら調べて下さるようお願いしておきました。ミツバチの奇形が風車に起因するものであるとしたら、風車の人への健康影響は音聴覚の問題でないことを示唆していると考えます。

ミツバチのほかに長崎からは牛への影響(起立不全、種付け不良、子牛奇形―四肢の関節奇形)などが朝日新聞武田記者から直接拙宅に取材報告されています。(記事にはなっていません)

(追加)

なお、先ほどのミツバチの奇形の件。野中さんのご主人はダニが原因ではないかと考え、死骸を一匹ずつ虫眼鏡を使って丹念に調べたそうですが、ダニは見つかったなかったということです。

原因が風車の影響だとすると、卵

を産む女王蜂の産卵機能に影響があったのか、産み付けられた卵、幼虫さなぎの段階で異変が生じたのか。羽化したミツバチの奇形がすべて、羽のよじれにより羽が開かない、飛べない、となると、**女王蜂の産卵にかかわる遺伝子に異常が生じている**ことも考えられます。

ペレイラ論文(※)では、低周波音の遺伝子への影響についても触れています。

(寛張 進)

※詳しい内容はYouTube上でご視聴ください。

「超低周波音による健康被害」
—マリアナ・アルヴェス・ペレイラ
博士講演会 in スロベニア



<https://www.youtube.com/watch?v=txUVdMkVsew>



ミツバチの脅威的で重要な働き

『BUSINESS INSIDER』より転載 (https://www.businessinsider.jp/)

養蜂家4700人を対象としたメリーランド大学による年次調査では、アメリカの養蜂家が管理するハチのコロニーは、2010年から毎年平均**37・8%**ずつ消滅している。特に昨年はそれよりも悪化した。昨年、アメリカの養蜂家が管理するハチのコロニーの**40・7%**が消滅した。これは13年前に調査が開始されて以来、最大の損失だ。受粉を担うハチがいなければ、**世界の農地の35%**で**収穫量が低下し、世界の主要な農作物の87品種が影響を受ける**だろう。

アーモンドの受粉は、完



全にハチに依存している。カリフォルニアは世界のアーモンドの80%を生産している、毎年130万のハチのコロニーが必要だ。

世界で消費される油脂の半分以上は植物から得られていて、ハチがいなければ生産が困難になる。すべての油糧種子は、少なくとも部分的にはハチによる受粉に依存しているからだ。

ハチによる受粉は農作物の品質も向上させる。ブルキナファソで行われた研究では、ハチによって受粉した綿花と胡麻は、自家受粉のものよりも、**品質と生産量が平均62%高い**ことがわかった。

欧州委員会による研究でも、ハチにより受粉されたイチゴは、風媒あるいは自家受粉のものよりも、**重く、赤く、身も詰まっ**



ており、変形したものも少ないことが明らかになった。ハチを失うことは、あなたの着たいコットンの服を失うことを意味するかもしれない。綿には1ヘクタールあたり8つのミツバチのコロニーが必要。ミツバチの1つのコロニーには2万から8万匹のハチがいて、**数千口先の花へと一斉に飛び立つ**。つまり、**ハチを失えば極度の食糧不足につながる可能性がある**。

FAOによると、受粉を要する農作物はそうでないものの**5倍の価値**がある。ミツバチはアメリカ経済に**150億ドル(約2兆1,700億円)**の貢献をしていると推定されている。

ミツバチの仕事人間やドローンなどのテクノロジーで行うこともできるが、コストがとても高くつく。



野生の花を
始めとして、
野菜畑を脅
かすだろう。



アリスファーム宇土巻子著『農的生活12ヶ月』より

赤井川の村会議員でアリスファームの藤門弘代表は、「かつてミツバチを3群飼っていたが、天敵のオオスズメバチも減り、ハチ類の急激な減少は絶望的で、それは暗澹たる気持ちだ」と述べられている。ホームセンターでは、未だに世界で販売禁止のラウンドアップが大量流通され、そのネオニコチノイド系農薬が死滅の最大の原因とされる。それに追い打ちをかけるように、

風車での更なる大量死が待っている。農産物の危機、地元経済の危機は、差し迫っている。

五、危ない地形と地質

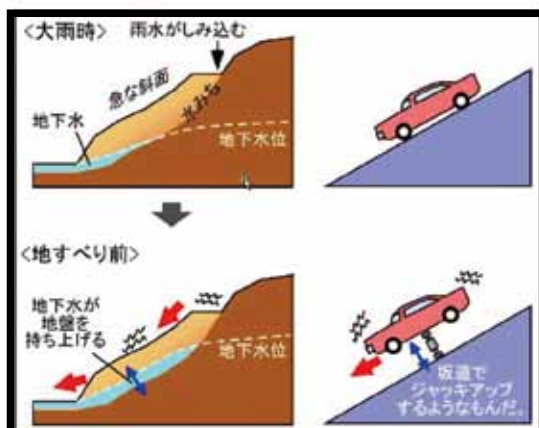
12月9日、小樽で行われた「小樽の巨大風力発電と自然エネルギーを考える会」主催の、元北海道科学大学非常勤講師で土木専門家である堀岡和晃氏が講師をされた「関西電力が計画している巨大風力発電・小樽・赤井川ウィンドファーム事業の危惧」と題した講義が衝撃的であった。終始一貫した「**風力発電と地すべりの関係**」については、古平・余市・仁木三町に直結する緊急警告であり、氏の許可を得て、私見を加えながら、その話をお伝えしたい。

①地すべり地形と何故風車が？

「国立研究開発法人防災科学技術研究所」が公表している『地すべり地形分布図』



参照：国立研究開発法人 防災科学技術研究所「地すべり地形分布図」より



地滑りのメカニズム

雨が降ったり、雪が溶け出したりして大量の水が地面に沁み込むと、その水は「水を通しにくい地層」の上にたまる。すると、その地層より上の地面がたまった水の浮力で持ち上げられる。そこが斜面だと、地面は塊のままゆっくりと下へ滑って行く。これが地すべり。

ること自体問題があったのではないかと。候補地にするところを

によると、図の通り対象事業実施区域には地すべり地形が含まれている。そもそも、これだけ多くの地すべり地形があるところを候補地にす

関西電力は、大電力会社にも拘わらず、ウィンドファーム事業を一度も経験したことが無かった。全国的に何基かを設置したに過ぎない。北海道ならば何処でも、と手当たり次第に名乗りを挙げて優先権を獲得しようとしたのではなからうか。60 Hzの西日本の市場は人口減で閉ざされ、50 Hzの東日本に生き延びる活路を見出そうとした。そして、調査深慮を加えずに杜撰な計画発表をした結果だった。

②地すべりと積雪深の関係

何故、図表に積雪深を加えたかは、融雪期の地下水が地滑りを誘発するためだ。古平・余市建設計画地が、平均積雪深が1.3〜1.6 mとされているが、今冬の異常な積雪量は、これを遥かに凌駕するであろう。昨今の気象変動は、想定外で、雪の量も質も著しい変化を齎

北海道積雪分布図 (平均最深)

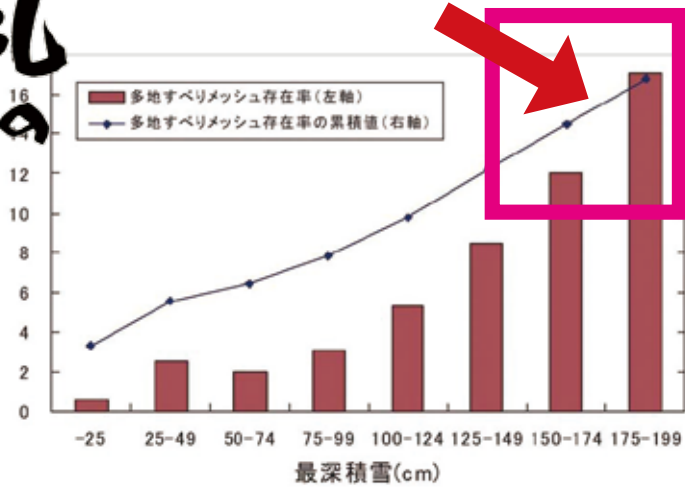
国立研究開発法人 森林研究・整備機構

図面にプロットし、等値線法によって作成した積雪分布図である。1. 資料の統計年数20年、観測年数18年以上の測点では実測年数の累年平均値をそのまま用いた。



参照：『北海道積雪分布図 (平均最深)』
国立研究開発法人 森林研究・整備機構より

風の 新の



参照：『日本列島の地すべり地形一分布図からの考察—（駒沢大学文学部地理学教室）』より

せている。あのパウダースノーは、北陸東北のベタ雪に変わって来た。築100年の我が納屋は、ついに重さに耐え切れず、半壊してしまっただ。

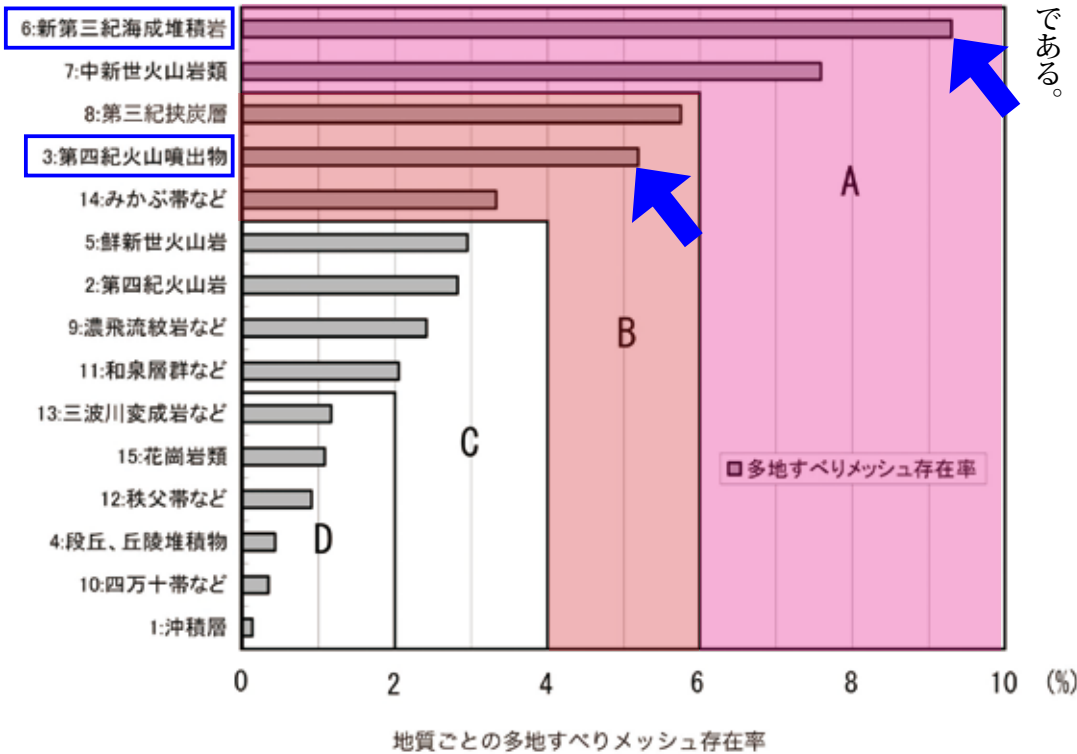
積雪が1mを越えた所で、多地すべりメッシュ（メッシュとは、1インチ当たりの目の数を示し、数字が多いほど細かい）存在率が、日本の平均3.4%を上回り、累積値は約50%、最大90%近くになる。



それに伴い雪害、凍結による風車事故が起こることは容易に想像できる。その時、どう対処するのか。どう山道を駆け上がるのか。200mもの風車を、誰がどう修理するのか、第一に未知の風車を熟知する専門家は、現地には不在なのだ。

③地すべりと地質、起伏量との関係

下図は「地質と多地すべりメッシュ存在率」だ。赤井川のカルデラ盆地形成期の同様の地質で、6%を超える約2300年前の「6・新第三紀海成堆積岩」と、4%を超

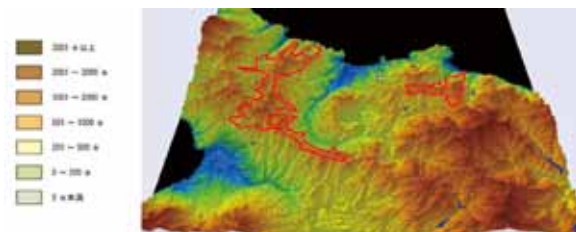


える184年前の「3・第四紀火山噴出物」になって、4〜6%以上の地質は、「多地すべりメッシュ存在率A・Bランク」である。それは、銀山から古平・積丹にかけての地層100mに及ぶ危険地帯である。

●「豊浜トンネル事故」に学ぶ — 同じ轍を踏まず—

1996（平成8）年2月10日に起こった国道229号を余市と古平を結ぶ豊浜トンネル事故。

参照：『日本列島の地すべり地形一分布図からの考察—（駒沢大学文学部地理学教室）』より



画像出典：国土地理院デジタル標高地形図より



画像出典：http://www.asahi.com/



画像出典：https://mainichi.jp/



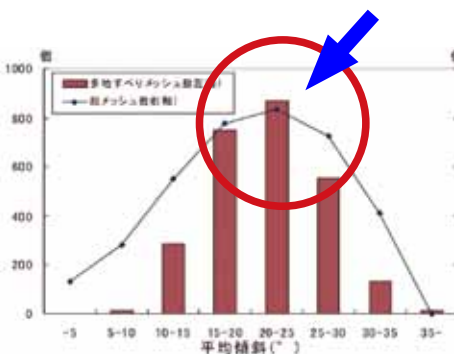
画像出典：https://roaddatanumane.at-ninja.jp/

崩落原因は、地下水湧出する岩場が厳冬期に凍結し、地下水圧の上昇を毎年繰り返すことにより、岩盤の亀裂を徐々に成長させた為と、1993年の北海道南西沖地震の影響が考えられるとしている。だが、その地質は、地すべり地質 A・B ランクの、ここ北後志一帯の同質のものであった。あえて、

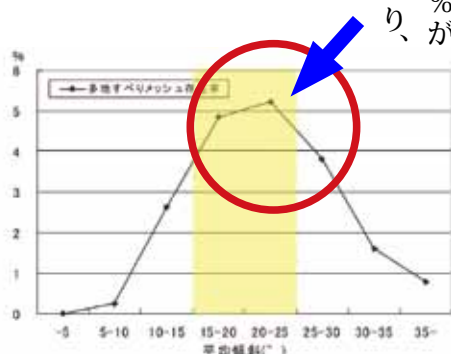
④地すべりと傾斜

日本列島の傾斜は15〜30%が突出しており、

この地形・地質で、危険度を顧みず、同じ轍を踏み、悪夢を再び見ることになる。



傾斜ごとの多地すべりメッシュ数



傾斜ごとの多地すべりメッシュ存在率

参照：『日本列島の地すべり地形—分布図からの考察— (駒沢大学文学部地理学教室)』より

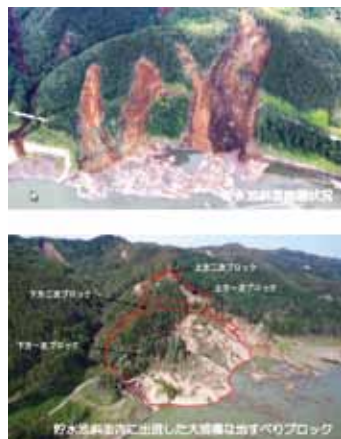


参照：国土地理院『デジタル標高地形図』より

左図では、色が濃いほど傾斜が急峻である。計画地の古平は傾斜度が高く、余市は周囲が高い。富士山周辺裾野でも白く、傾斜は緩いのだ。

同じく多地すべりメッシュも傾斜15〜30度に集中している。多地すべりメッシュ存在率も、起伏量を400〜800mにわたって5%を超えている。

⑤地すべりと土石流の被害



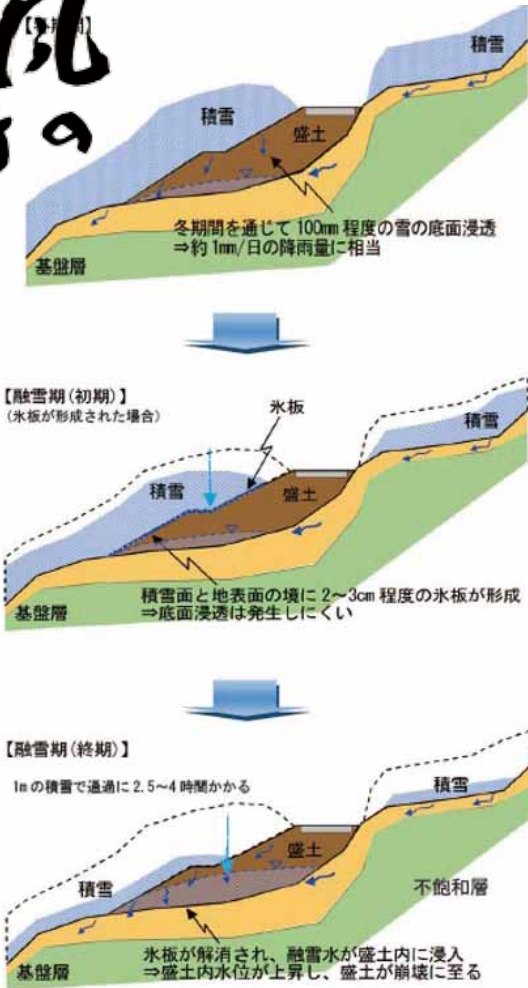
北海道建設部土木局河川防砂課資料より

地すべりで滑り落ちた土砂が川を堰き止めると、川の上流に水が溜まり、溜まった水が土砂を一気に押し流して、土石流が発生する。

土石流は、多くの立木を伴って流下し、橋梁に集積して河道を閉塞し、氾濫を誘発する。

2018年9月に起こった胆振東部地震での「厚真川の厚幌ダム貯水池地すべり」。ダムの洪水調節容量内に土砂等が異常に堆積したため、ダム洪水調整機能を著しく阻害するものとなった。

風新のり



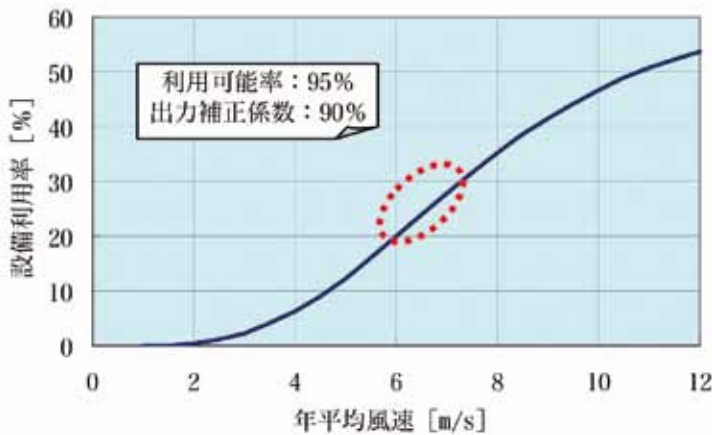
山頂周辺の斜面には、主要な風向き(南西)の裏側に、大量の積雪(通常で積雪深160cm程度、風裏ではその倍か)が出来、雪解け時に盛土内に侵入し、盛土内水位が上昇し、盛り土が崩壊にいたる危険性がある。(排水路に雪が詰まって流れない可能性があり)

⑥ 積雪寒冷地では、融雪水による盛土崩壊が起きる(特に風下の吹き溜まりに注意)

貯水池内の崩土全体の堆積土量が約73,000m³。流木の混入率も約12,930m³。何と、東京ドーム約22個分の堆積量だ。



出典:『寒地土木研究所月報』No.792 2019年5月「融雪水が道路盛土に及ぼす変状の分析と融雪期の道路盛土点検」より



参照:『風力発電導入ガイドブック』(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構より

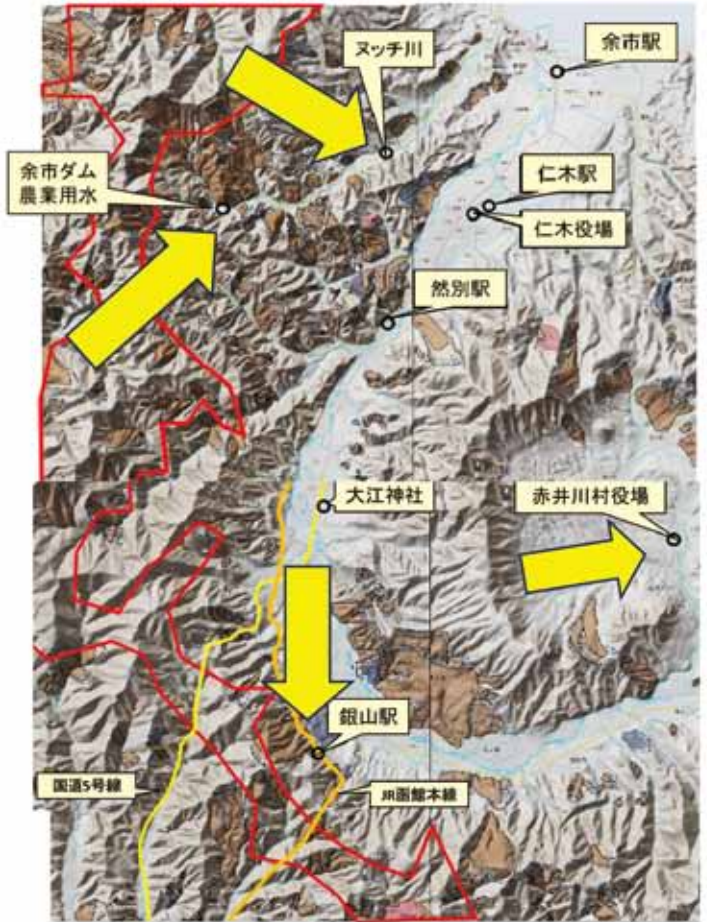
⑦ 風況6~7m/s、設備利用率30%にも満たない
風況(平均風速、瞬間風速、風向や風速の乱れなど、その場での風の状態や性質)は、6.6mを目安としているが、1年を通しての実測平均値でなく、正確ではない。しかし、そうだとすると、常時バックアップ電源を必要とする実計30%以下の稼働率しかない風車を、これほど稼働率に事業者が追い求めるのは、ただ利権でしかない。

又、齊藤余市町長が、風車推進の第一に挙げる理由が、「緊急時の電源確保」である。あの18年のブラックアウト時に、在来の風車は役に立ったのか。バックアップ電源が止まっている風車に発電できる機能はない。これは推進の全くの理由にはならず、これも利権以外の何ものでもない。

⑧ 古平・余市具体的影響
古平側、ヌッチ川そして銀山

本計画区域は、古平側と海岸沿いの河川に対し、尾根部よりこれまでにない出水が発生することで、土砂災害(地すべり、土石流)を誘発し易い状況にある。

- これに伴い、古平地区、沖地区、豊浜地区での洪水氾濫や土砂災害の増加が懸念される。
- また、沢町地区、豊丘地区、仁木地区、然別地区でも同様の懸念がある。また、余市ダムの貯水池に地すべりが起こればダム津波の危険性もある。
- さびに、銀山地区、大江地区で



矢印は、文中傍線の土砂災害危険地区一帯を示す
参照：国立研究開発法人 防災科学技術研究所「地すべり地形分布図」より

の洪水氾濫や土砂災害の増加が懸念される。国道4号線、JR函館本線に対し、土砂災害の危険性が増す。

●そして、余市川支流より赤井川村都地区・国道393号線に洪水土砂災害、落合ダム・常盤ダムに地すべり、ダム津波の危険性がある。

六、風車事業者に撤去義務はない

土砂崩れなどが起こった場合、自然林や人工林の自然災害は、治山事業など公的事業で賄われ、林業地や林道は、諸々の補助や優遇政策がある。だが、風力発電事業など人工物を建てた場合の事故や災害は、公的な事業や補助は一切使えず、地主の自己負担による責任となる。

廃棄費用の積み立ては、太陽光発電は義務化され「FIT期間終了10年前からの積み立て」となった

が、風力発電に義務はない。つまり、**1基3億円もかかる撤去費用は、一切地元負担となるのだ。**どうして、これに加担し、賛成するのか。町にとって自殺行為に等しい。

七、最後の力を振り絞って

関電は、22年7月伊達・千歳・白老ウインドファーム(以下WF)事業計画を中止、23年5月宮城県丸森・川崎WFを中止、11月古平・

余市WFでは仁木を外し、赤井川は現在調整中。計画が発表されてから、1、2年内外で中止発表の連続。稲穂峠に貴重な植生域があるため、今回WF計画から仁木町は外されたが、事業者と町は、銀山を諦めず虎視眈々と狙っている。

1月30日に開かれた初会合「**後志風力発電問題連絡会**」。赤井川完全中止、古平・余市も白紙撤回を目指して、小樽、赤井川、余市、古平、仁木の5市町村が協力提携。最後の力を振り絞って、「**全面撤退運動**」の環を拡げて行きたい。

仁木町の風力発電を考える会

仁木町大江1-341-44 代表 穂積豊仁
TEL: 080-1863-1306

【仁木風 HP】 <https://niki-wind.main.jp/>



風の祈り—第18章

2024年2月2日発行
発行所：株式会社まほろば

NATURAL & ORGANIC
自然食の店 まほろば

札幌市西区西野5条3丁目1-1
TEL:011-665-6624 FAX:011-665-6689
www.mahoroba-jp.net

